廃棄物・資源活用

306-1, 306-3, 306-4, 306-5

プラスチック問題対応

基本的な考え方・方針

ユニ・チャームは、商品や包装材などにプラスチックを使用するメーカーの責任を認識し、世界的な海洋プラスチック問題の解決に向けて、環境省が主催する「プラスチック・スマート」キャンペーンに賛同しています。
プラスチックは、経済性や耐久性に優れ、私たちの衛生的な生活に欠かせない素材であり、適切に使用し、廃棄・リサイクルすることが重要です。当社では、商品の原材料調達段階から廃棄までのバリューチェーン全体を適切に管理し、併せてプラスチック使用量の削減と、使用後の適切な廃棄方法の啓発、リサイクルに取り組んでいます。
2020年5月に公表した「環境目標2030」において、「プラスチック問題対応」の課題に対して、「新たな廃プラスチック“0”(ゼロ)社会の実現」を2050ビジョンに掲げ、2030年目標を設定しました。また2022年5月には、WWFジャパンが呼びかける「プラスチック・サーキュラー・チャレンジ2025」への参画に際し、プラスチック問題への対応を加速するとともに、2025年に向け目標を設定し推進するコミットメントを表明しました。

「プラスチック・サーキュラー・チャレンジ2025」参画にあたってのコミットメント

新たに2025年目標として、小売店の店頭で用いる販促物のプラスチック使用量を50%削減(基準年2019年)し、2030年にはグループ全体でゼロにします。また、包装材における使用量削減や、石化由来プラスチックフリー商品の発売に向け、新たに2025年目標を設定し、取り組んでいきます。

マネジメント体制

当社はTCFDの提言に基づき、「環境目標2030」と「Kyo-sei Life Vision 2030」に沿って報告を行っています。年4回、社長執行役員を委員長としたESG委員会でプラスチック問題対応に関する重点課題について計画と進捗を共有し、取締役会で承認を得た上で、目標達成に向けたPDCAサイクルを回しています。

P.036 環境マネジメント体制
P.010 ESG推進体制

▶ **環境目標2030「プラスチック問題対応」**

実施項目		基準年	2021年実績	2022年目標	2022年実績	2023年目標	2030年目標	2050ビジョン
包装材における使用量削減	原単位	2019年※	▲0.2%	▲6.0%	▲12.3%	▲14.0%	▲30%	新たな廃プラスチック“0”(ゼロ)社会の実現
石化由来プラスチックフリー商品の発売	—	—	開発継続	開発継続	開発継続	開発継続	10SKU以上発売	
使用済み商品廃棄方法啓発	—	—	38%(6カ国・地域)	45%	50%(8カ国・地域)	56%	グループ全社で展開	
販促物でのプラスチック使用ゼロ	—	2019年	▲8.9%(日本)	▲20.0%	▲81.8%(日本)	▲30.0%	グループ全社で原則ゼロ	

※ 設定当初、基準年を2016年としていましたが、2020年に再検討し、2019年に改めました

取り組み・実績

包装材における使用量削減

当社は、グループ全体で包装材におけるプラスチック使用量の削減に取り組んでいます。 パッケージの貼り合わせ部分の極小化や紙製パッケージの採用などを推進したことにより、2019年比で12.3%削減(原単位)しました。

▶ **環境目標2030 包装材における使用量削減**

2022年実績
基準年2019年
(原単位)
12.3%
削減

【インドネシア】紙製パッケージを採用した『MamyPoko Royal Soft Organic Cotton』

インドネシアの現地法人では、2022年8月に、紙製パッケージのベビー用紙おむつ『MamyPoko Royal Soft Organic Cotton』を期間限定で発売しました。

【韓国】紙製パッケージを採用した『SOFY無漂白ナプキン』

韓国の現地法人では、2022年3月に韓国国内の店頭と一部オンラインストアにおいて、紙製パッケージの生理用品『SOFY無漂白ナプキン』を発売しました。紙製のパッケージは、既存のパッケージと比べて、プラスチックの使用量を80%以上削減しています。

【日本】生理用ショーツに紙製フックを採用

生理用ショーツのつり下げフックの原料をプラスチックから紙に変更し、パッケージに使用するプラスチック量を約20%削減しました。

【日本】包装材のプラスチック使用量を削減した『ウェーブ』

包装材のプラスチック使用量を削減した『ウェーブハンディ 本体ケース付』と『ウェーブハンディワイパー 超ロングタイプ本体』を、2022年3月に期間限定で発売しました。既存のパッケージと比べてプラスチックの使用量を『ウェーブハンディ 本体ケース付』では約70%削減、『ウェーブハンディワイパー 超ロングタイプ本体』では約80%削減しています。

【日本】紙製パッケージを採用した試供品パッケージ

ベビー専門店で配布する『ムーニーナチュラル(テープタイプ)新生児試供品』に紙製パッケージを採用しています。

【日本】持ち手をカットしてプラスチックの使用量を削減したECサイト限定品

ECサイトでの購入実態に合わせた『ムーニー』『ムーニーマン』を、2022年10月にECサイト限定で発売しました。ECサイトで購入した場合、商品が自宅に直接届くため、パッケージの持ち手が不要です。この持ち手をカットすることによって、店頭品と比べてプラスチック使用量を約13%削減しました。また、サイトで商品の特長を確認できるため、パッケージ上での訴求を必要最小限にとどめることで印刷に用いるインクの使用量も削減しています。さらに、お客様の使用実態に合わせて、パッケージの中央にミシン目を入れて真ん中から2つに開く形状にする工夫を施すことで、紙おむつの在庫量が分かりやすく、そのまま保管しやすい仕様としました。

【日本】外装サイズ見直しによるプラスチック使用量削減

キャットフード『銀のスプーン』では、2022年9月より外装サイズを見直し、内容量はそのままに、パッケージのプラスチック使用量を約6%削減しました。

【日本】工場廃棄物のプラスチックリサイクル 301-3

プラスチック使用量削減につながる活動として、商品をパッケージに詰める際にカットされた余白部分をパッケージの原料に戻すことに成功しました。

石化由来プラスチックフリー商品の発売への取り組み

当社は、石化由来プラスチックフリー商品の発売に向け、植物由来のプラスチックを使用した商品の拡大に取り組んでいます。2020年に『ウェーブハンディワイパー超ロングタイプ収納ケース付き』の一部の商品に、通常はごみとして捨てられてしまう非可食農業副産物（籾がら）から作られたバイオプラスチックを使用した収納ケースをセットにして限定発売しました。2021年には、本体容器の底フタ部分に、植物由来のプラスチックを約38％使用した、『シルコット®ウェットティッシュ ノンアルコール除菌※1』を限定発売したほか、「プラスチック製トイレ容器」原料の10％に植物由来のプラスチック原料を使用した、猫用システムトイレ『デオトイレ 子猫～5kgの成猫用本体セット』を限定発売しました。また、2022年6月には、インドネシアの現地法人において肌に触れる表面シートとショーツと接するバックシート、個包装やパッケージに、従来廃棄されていた「サトウキビの搾りかす」を原材料に活用した「バイオマテリアル※2」素材を採用した生理用品『CHARM Herbal Ansept+ Bio』を期間限定で発売しました。

※1 全ての菌を除菌するわけではありません。
※2 プラスチック素材の一部をバイオマスプラスチックに変えた素材

P.028 プラスチック使用量の削減

▶ 環境目標2030 石化由来プラスチックフリー商品の発売

2022年実績
開発継続

使用済み商品の廃棄方法啓発

当社は衛生的な日常生活に欠かせない消費財を提供するメーカーとして、使用後の正しい廃棄方法を啓発することや、リサイクル活動を浸透させることが重要と考えています。グループ全体で、商品パッケージへの記載等を通じて使用済み商品の正しい廃棄方法を啓発しており、2022年の展開率は50％（8／16カ国・地域）です。

▶ 環境目標2030 使用済み商品廃棄方法啓発

2022年実績
50％
（8カ国・地域）
展開

【インドネシア】小学校で「ごみの分別」をテーマに授業

インドネシアの現地法人では、2019年より、工場周辺の河川清掃やごみ箱の設置による啓発活動、アメリカミズアブの幼虫を用いた使用済み紙おむつの埋立廃棄の削減に関する実験などに取り組んできました。
経済成長によってごみが増加していることを踏まえ、分別やリサイクル推進を目的に、インドネシア教育文化研究技術省と協働して、2022年9月にジャカルタ特別州内、12月にカラワン工場付近の小学校で「ごみの分別」をテーマとした授業を実施しました。

【日本】親子で学ぶ紙おむつリサイクルのセミナーを開催

2022年7月に、コモンズ投信株式会社が主催する「こどもトラストセミナー」にて、「紙おむつはもう“ごみ”じゃない～“吸うチカラ”と“リサイクル”を学びSDGsを実践しよう」を開催し、小学3年生から中学2年生までの子どもと保護者計17名が参加しました。

【日本】志布志小学校で特別授業を開催

当社は、志布志市教育委員会と協働して、2022年11月に「紙おむつはもう“ごみ”じゃない～紙おむつ『水平リサイクル』を学ぼう！」をテーマとした授業を鹿児島県志布志市立志布志小学校で実施しました。

P.027 環境配慮型商品の開発／リサイクルモデルの拡大

当社は、次世代の地球を支える小中学生に向けた「使用済み紙おむつは、もう“ごみ”じゃない『図解でわかる ユニ・チャーム紙おむつリサイクル』」を、Webサイトで公開しています。

web https://www.unicharm.co.jp/ja/csr-eco/education.html

販促物のプラスチック使用量削減

当社は、2030年にグループ全社で「販促物でのプラスチック使用ゼロ」という目標を設定し、小売店において商品陳列の際に使用する販促物のプラスチック使用量削減に取り組んでいます。
日本での取り組みを先行して進めており、陳列用のフック器具や骨什器、POP等の紙素材への切り替えや、紙製ラックの開発などに取り組んでいます。2022年の日本の販促物におけるプラスチック使用量は5.6tonで、2019年比で81.8%削減しました。

▶ **環境目標2030 販促物でのプラスチック使用ゼロ**

2022年実績
基準年2019年
81.8%
削減（日本）

▶ **【日本】販促物におけるプラスチック使用量（ton）**

	2019年	2022年
陳列用のフック器具	6.2	1.4
骨什器	0.9	0.2
ラック	6.9	0.6
その他（梱包材等）	17.1	3.4
合計	**31.1**	**5.6**

P.028 プラスチック使用量の削減

紙製の販促物

【日本】販促物のプラスチック使用量の削減を宣言

当社は、資生堂ジャパン株式会社、株式会社ファイントゥデイ、ライオン株式会社の3社と、小売店の店頭や売場で設置する販促物で使用するパーツをプラスチック製から紙製へ順次変更し、プラスチック使用量の削減に取り組むことを宣言しました。各社で進めるプラスチック使用量削減を商品だけでなく販促物においても実行することで、日用品／化粧品カテゴリーをリードする各社の強みを活かし、環境に配慮した社会および業界全体の発展に貢献することを目指しています。